

381

特 251

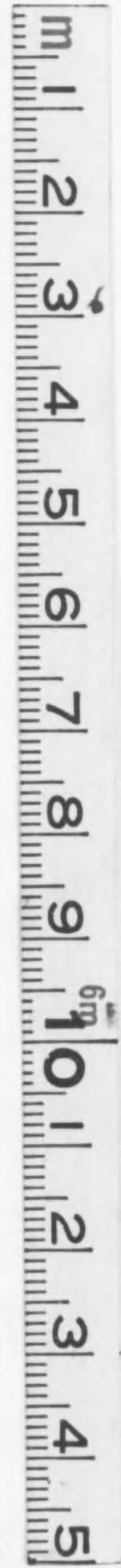
9

7

108

電力案は果して
革新政策か

昭和精神國防協會・發行



始



電力案は果して革新政策か

電力國家管理案を革新政策なりとする見解には反對である。
否、本格的な建前からするならば、こうした個々の國家管理の如きは整然とした國家維新の體制を整へる場合に形の上からも見解の點からも往々にして無用な煩雜性を招伴する嫌があるばかりでなく、特にこれが現在の官僚の巢を増やす結果となる事は、實際には革新阻止のトーチカを作り上げる事と一般である。一時官僚イデオロギーなるものが世間の注目を引いたが、彼

二
等のあらゆる考へ方の前提をなすものは官僚に都合がいゝと言ふ事を絶対の條件とするものであつて、事いやしくもこれに反する場合には極端に保守的であり反動的である。而も現在の官僚群の中堅層をなすものは、何れも自由主義彌滿時代の美濃部憲法に育てられたものであり、學生時代直接「赤」へ飛び込まずとも多分に左翼フアンの傾向を有する者の多い事は識者の等しく認むる處である。

こうした官僚群の末が案ぜられてゐる際に次々と官僚の巢を増やして行つて、氣が付い時には官僚のために身動きも出来なくなつてゐたと言つた事も既に今日の状態からしても當然、想

像して見なければならぬ事に屬する。而も國體明徴を中心として在野の團體は彼等とイデオロギーの上で到底相携へて行けない筈である。

社會大衆黨が聲を大にして管理案に賛成してゐるが、何でも國內の機構をガタ／＼に混亂させさへすれば後はこつちのものだと陰で赤い舌を出して居れる彼等ならば知らず、あらゆる場合、無用に對外的國力を弱める事は避けなければならぬ我々の立場からすれば、業者の熾烈な反感を残すばかりでなく、東北振興會社の如きヨイ／＼的存在をまた一つ増す事に賛成する事は出来ない。

遞相は議會で電力が豊富に安くなる事を頻りに説明してゐるが、算盤を持つて商賣をしてゐる業者とお役人の日々毎日の仕事振りを一目でいゝから實際に比較して見たら、『勘定合つて錢足らず』の机上の空論である事は議論の餘地がない筈である。若し嘘だと言ふならば、新會社の構成内容たる人件費と官僚の具體的能力迄も此際徹底的に検討されなければならぬ。

只國防上の必要を最後の切札に出すと言つた事を新聞で報じてゐるが、日本はまだ支那や歐米各國と違ひ各種の事業に殆んど國際資本が混在して居らぬし、一二の例を除けば外國資本に經營上の干涉をされてゐるものはない。従つて從來とも政府の統

制が何等邪魔されずに直接に効いてる筈であり、國防上の必要ならば、現行の電氣事業法を改正するだけで充分電力の増加も出来れば所要の秘密も保持出来る筈であつて、これでも尙且安心が出来ないと言ふのであれば、現在民間の軍需工業の如きは、作戰資材との重要關係から言つても同時に全部これを國家管理に移さねばならぬ必要に迫られてゐる譯である。

こぼした理路の一貫しない而も無用の相尅を敢てして嫌だと言ふものを無理に取り上げた結果、技術家の自暴的なサボターヅでも招來して大事な時に能率もヘチマもない大變な代物を作り上げる危険のある本案を、何時果てるとも知らぬ長期戦の

最中に國民精神總動員と共に持込む事が、六 どうして革新政策なのか理解に苦しむ外ない。

政府が金融資本家とだけ相談してゐる事は不都合だと議會で憤慨してゐる向きがあるが實はこの金融資本を膝下に押へて生殺與奪の權を握らぬ限り、個々の産業をいくら國家管理に移して見た處で、恰度梅毒を治療せずには吹出物を片つ端から切開して返つて身體そのものを餘計に弱らして行くと同様で、この意味からすればむしろ革新の邪魔物である。曾つてドル買に依つて數億圓の金を國外に流出せしむる因をなした三井の池田が、郷誠之助と共に内閣參議で納まつてゐるが、これは決して單に

有爲轉變の世の中じやなあと笑殺してしまへる事ではなく、こほした處にこそ眞險に革新を考へるものゝ對處すべき針路があるのではなからうか。

内地の財界に一言の挨拶もなく日産鮎川が滿洲乗り込みをやつたと言ふので無視された口惜しさも手傳ひ蔭でブウ〜言つてゐるやうであるが、これは結局彼等が國策の線に添ふて事業報國をやらうとしなかつた報ひであると言ふ事を反省自覺するでもなければ、恐らくば今後共、日産鮎川を援助し或ひは協力すると言つた事もなさないであらう。

現にこれだけ國を擧げて戦ひ、北支南支に皇軍が尊い血を流

して居り、戦局の收拾と同時に國民多數に依つてそれ〴〵政權
工作或ひは經濟開發が考へられてるにも拘らず、肝心要めの三
井、三菱等以下の金融財閥はせいぜい慰問袋にお茶を濁程す度
で、後は何處吹く風かと納まり返つてゐる。なぜ眞先きに立つ
て動かないんだと聞いても、そんなにあわてゝ動けるものじや
ないと當然の事のやうに答へるだけで、悪く邪推すれば、日産
問題で鼻を曲げたか俺達が出ずにやれるものならやつて見ろと
言つた態度である。彼等は國民の多數が戦場で死んでゐようが
どうしようが、彼等の氣に入るやうにお膳立が出来上らぬ限り、
資本を抱いたまゝ挺でも動かうとしない悪い僻がまだちつとも

抜けてゐないやうである。

いくら皇軍が戦局を有利に展開しても、政府が戦費を賄ふだ
けでせい一杯の今日、金融資本にソツポを向かれたまゝ放任せ
ざるを得ないやうでは、遺憾ながら戦後の經營など思ふ様に出
來るものではない。

金融資本を國策の線上に添ふて自由自在に驅使し得る權能を
眞に國民の代表たらんとする政府に握らしむる事が、唯一の根
本義であつてこぼした頭の方から先づ押へて下を自ら正すと言
つた事をせず、「古い皮袋に新らしい酒を盛らんとする」「電力
管理案如きを無理に革新政策なりと騒ぎ立て、問題の本末を見

誤まるが如き愚は嚴に避けなければならぬ。

獨逸でやつてるとか伊太利でもやつてると言つた事が、本案の生れる動機をなしてゐるが獨伊は國を賭しての革命を経てヒツトラー、ムツソリニーの下、一騎當千の人材が自國復興のため日夜腕に燃りを掛けて奮闘してゐるのであつて、それを現在の日本の官僚がそのまま眞似しようたつてそれは鵠の眞似する烏水に溺るゝの俚諺を立證するのが落ちである。

殊に日滿支經濟ブロックの盟主となりたる日本は好むと好まざるとに拘らず、資本主義的に後進の二者をひつさげて充分に之れを開發せねばならぬ運命を背負はされたものである。

従つて金融資本を國益的立場に立たしめてその下に産業資本家を總動員し、滿支の曠野に十二分の活躍をせしめねばならぬ必要を眼前に控えて、彼等の企業心を萎縮せしむる國家管理を強行せんとするが如き事は少なくとも國力の増進を當面の急務と考ふるものゝなすべき業ではない。

大陸の經營を中心に眞險な論策が行はれねばならぬ貴重な時間を電力問題に空費しつゝある議會の現状を座視するに忍びず敢て一言する次第である。

昭和十三年二月

昭和精神國防協會

昭和十三年二月十日^五印刷

昭和十三年二月十八日發行

發行所 東京市京橋區橫町二ノ五

昭和^五精神國防協會

發行並印刷人

岡 部 信 平

終

